

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.87 平成27年10月号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6F
tel:092-733-5707 fax:092-733-5680 email: library@urc.or.jp

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

目次

◆URC資料室ニュース

平成27年度 第2回ミニセミナー開催予告・・・1

◆URCニュース

①平成27年度 第3回 都市セミナー開催予告・・・1

②第22回 日韓海峡圏研究機関協議会 研究報告会開催

報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

◆「在福グローバルIT人交流会 in Fusic」参加報告・・・3

◆FDCニュース 石丸事務局長西日本支店長会で活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

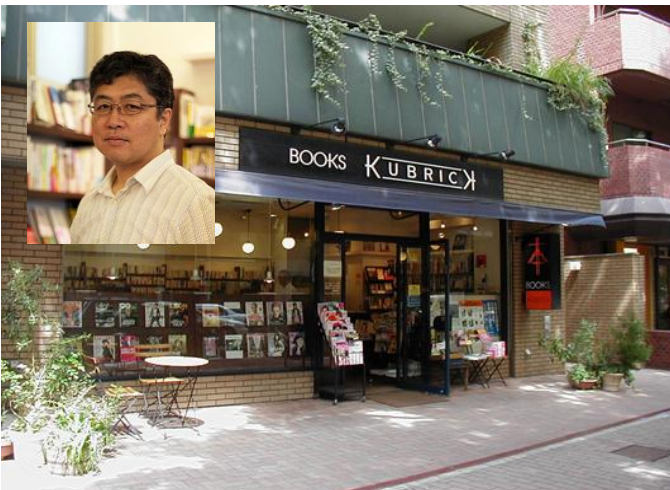
◆マスコミでみるURCの今・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

◆「資料速報 平成27年9月受入分」・・・・・・・・・・別添

◆URC資料室ニュース

平成27年度 第2回ミニセミナー「小さな本屋がつなぐ人とまち

ー書店ブックスキューブリックの試みー」を開催します。司書 山崎 三枝



2001年4月、けやき通りに開店されて以来、独自の品揃えと活動で注目されている書店、ブックスキューブリックの店主 大井実さんにお越しいただき、文化を育む書店のコンセプトやこれまでの活動をご紹介します。

皆様のご参加をお待ちしております。

■日時：平成27年10月28日(水) 18:30~20:00
(開場 18:00)

■場所：当研究所会議室 福岡市役所北別館 6階
(福岡市中央区天神1丁目10-1)

写真出典：大井実氏提供及びブックスキューブリックHPから

◆URCニュース

①平成27年度 第3回都市セミナー 2015年アジア都市景観賞関連事業

「チャレンジするアジアの都市景観」を開催します。 調整係長 馬場 孝徳

美しい景観は、そこに住む人々にやすらぎや活力を育みます。ダイナミックに成長するアジアでは、都市化が進む中、歴史的意義の深い建造物や街並みなど伝統を生かす街づくりや、あるいは都市の新たな顔となる都市空間の創生など、都市のアイデンティティにつながる魅力的なエリアが多数形成されてきており、人々を幸せにする環境と調和した豊かな景観づくりのチャレンジが行われています。

今回のセミナーは、東アジア各都市の景観づくりの実際を、政策・計画・事業や活動など多様な視点から紹介

し、都市景観の創造、維持・保護などに興味をお持ちの方々にこれからのまちづくりを考えるきっかけになればと期待しています。

■日時：平成27年10月27日(火) 10:00~12:00 (開場9:30)

■場所：グランドハイアット福岡 3階ホール
(福岡市博多区住吉1丁目2-82)





内容は、趣旨説明（問題提起）を九州大学大学院芸術工学院教授でアジア景観デザイン学会名誉会長の佐藤 優 氏が行い、「アジアの景観デザイン -これまでとこれから -」を九州大学大学院工学研究院教授でアジア景観デザイン学会会長の坂井 猛 氏にお話しいただき、「都市計画と景観

づくり（韓国の事例）」を西京大学都市工学科教授 金俊榮 氏に、「経済成長と景観づくり（中国の事例）」をアジアハビタット協会 主席パトリック リュー 氏にご報告いただきます。

関心をお持ちの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

写真出展：URC 写真説明：アジア都市景観賞受賞都市（1 ページ「福岡：シーサイドももち地区（2010年度受賞）」、2 ページ「烏鎮（中国2014年度受賞）」

②日韓海峡圏研究機関協議会 2015年度定期総会研究報告会が福岡市で開催されました！

日韓海峡圏地域の発展や相互理解に寄与することを目的とする第22回「日韓海峡圏研究機関協議会・研究報告会」が、9月16日から2日間ソラリア西鉄ホテルにて開催されました。

今年9月に光州発展研究院と全南（ジョンナム）発展研究院が「光州全南研究院」として統合されたことから、韓国側の研究機関が6機関から5機関となり、日本側の5機関に合わせ、10研究機関の参加となりました。



初日の定期総会では、2015年度事業計画の承認と、役員機関の選出が実施され、九州経済調査協会と蔚山発展研究院がそれぞれ会長と副会長機関に選出されました。副会長機関の地域で次年度の総会が開催される慣例により、来年度の定期総会は韓国（蔚山）での開催となります。また来年度の大研究テーマとしては、今年度と同様に「少子高齢化への対応」が再び採択されました。

さらに、今回は日韓海峡圏研究機関協議会20周年功労者表彰が行われ、日本側は長崎経済研究所の中村政博調査研究部長が、韓国側は釜山発展研究院の琴性根先任研究委員が受賞されました。

翌日午前中の研究報告会では、東京大学高齢社会総合研究機構学術支援専門委員の木村清一氏より、「Aging in Placeの実現を目指す柏プロジェクトの取り組み」をテーマに、現在千葉県柏市を対象に取り組んでいる長寿社会のまちづくりプロジェクトについての基礎講演が行われました。木村氏は、後期高齢者（高齢者のうち75才以上の者）の急増と、都市部の深刻な高齢化を挙

げた上で、その対策として医者や介護士等が独居高齢者を直接訪問するなど、地域の皆で高齢者問題を解決する「地域包括ケアシステムづくり」と「高齢者の生きがい就労の実現」について紹介されました。結論として、ケアシステムについては、行政との協力的なパイプが重要であり、また高齢者就労に取り組むべきポイントとして、就労意識の改革を促すことや就労者と雇用事業者を繋ぐ役割を担うジョブコーディネーターの養成等を提示しました。

その後、「少子高齢化への対応」をテーマに研究発表及び討論が2つのセッションで行われました。

セッション1では、慶尚南道の高齢化の現状と政策課題（曹周鉉研究委員・慶南発展研究院）、全羅南道におけるローカルニーズに基づいた出産奨励政策（金大成責任研究委員・光州全南研究院）、済州における人口流入支援策（鄭穎台専門研究委員・済州発展研究院）の韓国側の発表がありました。

次のセッション2では、国際介護人材の養成の調和化（小川全夫特別研究員・福岡アジア都市研究所）、九州地域における人口減少対策：別府市を例として（田村一軌上級研究員・アジア成長研究所）、高齢者の就労ニーズと多様な働き方を支援するうえでの課題の考察（南伸太郎研究主査・九州経済調査協会）の3つのテーマで日本側の発表が続きました。

中でも、URCの小川特別研究員は発表で「日本では今後高齢化が進むにつれ、介護人材の確保が重要な課題と



なっており、その対策として外国人労働者の雇用が注目されている。しかしながら、例えば留学生が日本で介護に関する資格を取得する事は難しい上、取得しても国際的に相互認証がないため、在留期間が過ぎた留学生が母国に帰っても介護分野で活躍出来ない等の問題がある」と指摘しました。そこで、小川特別研究員は、それぞれの国の事情による資格制度を損なわないように、基礎的かつ共有実践訓練プログラムを共有する枠組みとして、国際的介護トレーニングセンター構想について提案しました。

この発表に対する指定討論者として登壇した、釜山発展研究院の李東賢専任研究委員は「韓国では、外国人労働者に対する閉鎖的な文化や、多文化社会に対する抵抗、外国人労働者に対する差別意識等が未だに存在している状況の中、外国人介護者を雇用する企業側の低い賃金制度によるサービスの質の低下などが起こる事がある」と指摘した上で、「その管理制度について是非小川特別研究員に助言を貰いたい」と述べました。



研究報告会の後には、FUKUOKA オープントップバスによる福岡市内の視察も行われ、日韓研究機関同士の交流と相互理解を一層深める事が出来ました。

写真出典：URC撮影（柳基憲 研究主査）

◆「在福グローバルIT人交流会 in Fusic」に参加しました！



今年の個別研究「ICTを活用したグローバル人材の支援可能性」の一環として、以前福岡のIT企業「株式会社Fusic」を訪問し、ヒアリング調査を行った事があります。企業関係者によると、「グローバルIT人材に関する情報はなかなか表に出ないため、IT人材の確保のための機会（チャンス）に関する情報が不足している」という事が課題である事を知りました。

株式会社Fusicは福岡発のIT企業で、社員約30人のうち外国人社員として2名の韓国エンジニアが働いていますが、彼らは国内採用ではなく、採用担当者が直接ソウルで開かれた就職関連イベントに参加し採用したという事でした。グローバルIT人材の採用においては、国籍など関係なく優秀な人材がいれば採用するとの方針でした。株式会社Fusicは今後、福岡を中心とした、より優れたIT人材を確保するため、福岡在住のIT人材と留学生の交流会を行う事になりましたが、その第1回目のイベントに私はゲストスピーカーとしてお招き頂

き、再び同社を訪れてきました。

このイベントは、福岡のIT業界における海外出身の方々との交流を目的に「在福グローバルIT人交流会 in Fusic」をタイトルとし、9月11日同社の会議室で行われました。当日は福岡のIT業界で活躍の海外出身の方々や、福岡で学ぶ留学生の方など約20名の方々が参加しました。私は「福岡の良いところ」「福岡と海外ではここが違う」など、福岡について外国人の目線からお話をさせて頂きました。また、韓国出身のエンジニア二人も、「福岡に来たきっかけ」「福岡の不思議なところ」など海外出身だからこそ気づく福岡の魅力についての紹介がありました。講演後は、滞在スペースマッチングサービスで世界的に有名なIT企業「airbnb」からの後援で



提供された軽食をつまみながら、それぞれの出身国の話や海外から見た日本について語り合い、楽しく交流を深めることができました。今回のイベント参加は、留学生の価値について改めて考えさせられる有意義な時間でした。株式会社Fusicの関係者の方々に心より感謝申し上げます。

写真出典・報告（柳基憲 研究主査）

◆FDCニュース 石丸事務局長が西日本支店長会にてFDCの取り組みを紹介しました。

福岡都市圏に支店や支社を置く238社で構成する西日本支店長会の9月例会において、福岡地域戦略推進協議会(以下FDC)の石丸事務局長が講演しました。産学官民連携のシンク&ドゥタンクであるFDCが

取り組む福岡都市圏の成長を促す地域戦略と事業推進について詳しく紹介しました。

協議会設立から5年目を迎える中、今年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針」の中で地域活性化に資する官民連携の先進事例としてFDCが記載されるなど、活動が全国的に注目を集めていることにも言及しました。

宗像市との包括連携協定締結や、経済産業省に採択されたSIB(ソーシャルインパクトボンド)事業など新たに進めているプロジェクトについても報告しました。

さらに、福岡都市圏の将来像を「東アジアのビジネス拠点として発展すること」と位置付け、「FDCは戦略を実行に移す段階にきており、九州全体に成果を波及させたい」と意気込みを語りました。

写真出典：FDC撮影(FDC-HPから引用)



◆マスコミでみる「URC」の今! -最近1か月の情報を中心に-

◎新聞

(2015/9/27 読売新聞 朝刊 33p)

商店街活性化へ新手法 福岡市、FDCの連携
FDCの活動が紹介される。

(2015/9/26 西日本新聞 夕刊 2p)

My View Point わたし活性化計画
Joshi-Communication 「情緒」が重要視される時代 企業で 社会で 多様な価値を生む力に
FDCフェローの西田明紀さんが執筆

(2015/9/25 朝日新聞 朝刊 26p)

アート3館、割安に「ぐれっとパス」今年も開始/青森県
市民研究員 OB 藤浩志さんの十和田市現代美術館館長としての活動が紹介される。

(2015/9/24 日刊建設工業新聞 11p)

建コン協ら実行委/10月5~6日に福岡市で技術フォーラム/竹村公太郎氏ら講演
当研究所 OB で現在企画委員の谷口博文さんが記念講演を行うフォーラムの開催予告

(2015/9/21 秋田魁新報 朝刊 25p)

動物園アートにぎやか 秋田市の大森山、秋田美大生が作品展
市民研究員 OB 藤浩志さんが秋田公立美術大学教授として、大森山動物園長とトークを繰り広げた。

(2015/9/19 熊本日日新聞 夕刊 7p)

◎アートカレンダー・九州 展覧会
市民研究員 OB 藤浩志さんが鹿児島県霧島アートの森で行うイベントの開催予告

(2015/9/18 東奥日報 朝刊 23p)

3館入館お得に 割引パスポート開始 寺山記念館(三沢)現代美術館(十和田)鷹山美術館(七戸)
市民研究員 OB 藤浩志さんの十和田市現代美術館館長として記者会見 企画を話す。

(2015/9/16 秋田魁新報 朝刊 21p)

卵のオブジェ、トリック壁画・・・動物アート楽しんで

19~23日、秋田市の大森山動物園 秋田美大と共同企画/市民研究員 OB 藤浩志さんが秋田公立美術大学教授としてのイベントの開催予告

(2015/9/15 南日本新聞 朝刊 28p)

社告 藤浩志氏の美術展「霧島超(ちゅー)芸術学校〜あしたかえるつもり」

市民研究員 OB 藤浩志さんの美術展の開催予告

(2015/9/2 日本経済新聞 朝刊 35p)

リノベの利 九州発 RENOVATION 中「身の丈」が時代リード

市民研究員 OB 吉原勝己さんが自らのリノベーション活動を語る。

(2015/9/2 西日本新聞 朝刊 22p)

西日本支店長会 石丸氏が講演 都市圏「東アジアビジネス拠点に」

FDC 石丸修平事務局長が講演

(2015/8/31 西日本新聞 朝刊 3p)

社会保障投資家と連携 読み解く 福岡、熊本で実証実験 行政コスト削減なら配当

「介護の質」も金銭換算 評価態勢、会計制度など課題
FDCが実験に協力

◎雑誌

(2015/6/30 愛知大学三遠南信地域連携センター紀要 No.2,2014 第2号 109~110p)

福岡・釜山の広域経済圏形成に向けた外国人高度人材の就職支援プラットフォームの構築/柳基憲研究主査が研究代表を務める研究が紹介される。(※印=以下同じ)

(2015/6 リアルパートナー2015年6月号 10p)

老朽化物件をビンテージビルに再生。地域のランドマークとしてにぎわい創出/市民研究員 OB 吉原勝己さんが(株)スペースRデザインの社長として執筆

(2015/3/31 愛知大学三遠南信地域連携センター NEWS Letter No.2 7p) *